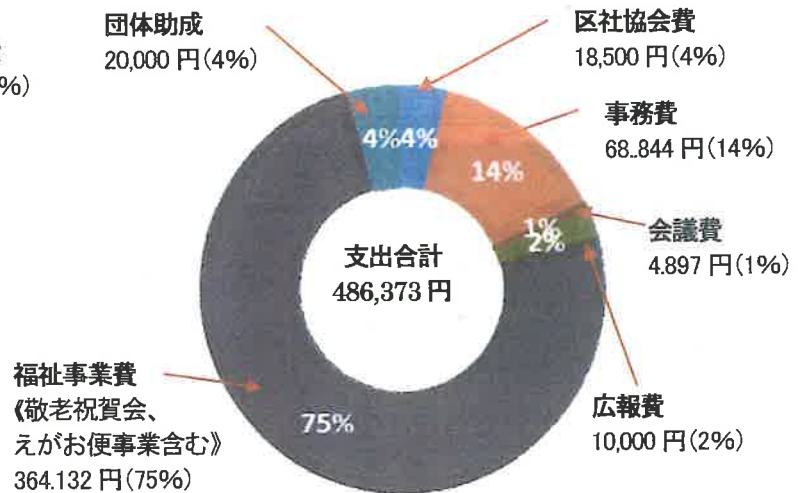
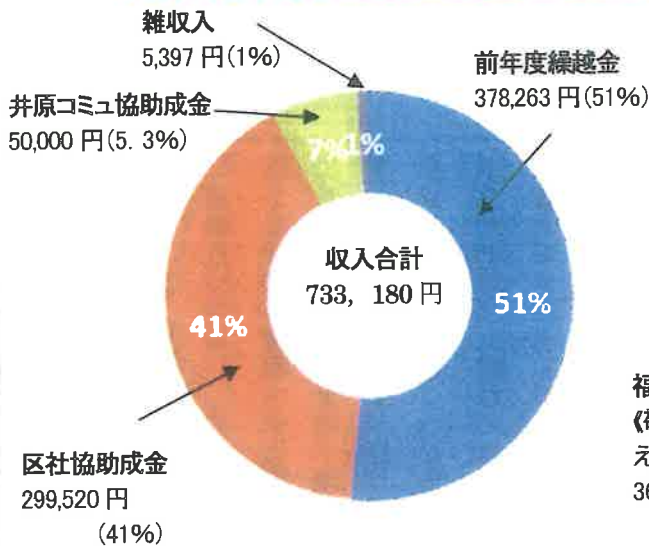


令和3年度 収支決算報告

収入 繰越金で、支出を賄えたため、福祉資金の繰入をしておりません。

支出 新型コロナウイルス感染防止のため、予定していた主行事・会議を前年同様、開催できず事業費の支出が殆どできませんでした。



令和3年度 事業報告

・往復ハガキえがお便による
高齢者の安否確認
 年11便 対象者18名

・福祉研修会 中止
 (資料配付)

・敬老祝賀会 中止
 80歳・85歳・90歳・95歳
 47名 記念品授与

・一人暮らし高齢者の集い
 該当者79名贈答品贈与

・白木いづみこども園
 卒園児 お祝品贈与

・つくし会・えくぼ会 2回・1回
母子 会ふれあい会 3回開催
 (令和4年3月解散)

・昔遊びの会 1回

・福祉のまちづくりプラン
 (第2次) 4年目

・広報紙「社協いばら」の発行
 2回発行 (8月、1月) 各550部

・あんしんネットワーク
 ・中止

・いきいきサロン連絡会開催
 ・中止

特集記事



今回の特集は、特定非営利活動法人「NPO法人マル愛」設立に奔走された初代理事長の中川康信様にお話を聞きました。

① 立ち上げの経緯

私が、社協の役員在職中、お年寄りの方から休耕田の草刈り等の大変さを聴き、また、一人暮らしの高齢者が多くなっている現状をみて、料理等を通じて語り合う場所を作ろうと思ったのが動機です。そして、仲間を得て、法務局に何度も足を運び、平成一四年12月に認可を取りました。

設立の資金は、安佐北区社協より2百万円の寄付と、会員募集を懸命に行い、寄付金約3万円を集め設立することができました。

② 事業の内容

当初は、年3〜4回の料理教室や、田畑仕事の代行・家事支援・介助・庭木仕事等を幅広く行っていました。しかし、料理教室も百回以上開催後は、主催者の高齢化もあり休業中で、現在、草刈り作業が8割で、2割は庭木の剪定・畑のシート張り・家の

周りの整理等となっています。活動範囲は、白木町全域です。

③ 現在の活動状況

理事及び会員12名で、年間約150件の依頼された仕事をこなしています。また、現在は見張農園の管理も受け持っています。メンバーは、12名で、



設立当初時と人数的にはあまり変動はありませんが、退会者もあり、高齢化もあり、組織維持には、苦勞しています。また、メンバーの多くは稲作もしており、農繁期や作業時間帯には工夫しています。

④ 事故や怪我について

作業は、草刈り機等使う事の多い危険な作業です。安全第一にを念頭におこなっていますが、怪我や事故は絶えません。小さい切り傷は、しょっちゅうです。急斜面の作業で転落も数件ありました。一



方、草刈り機使用で飛び石となり、車のウインドガラス・横ガラスまた家の窓ガラス破損もありました。また、草刈り作業は、夏場が多く、作業者が熱中症になったこともあります。(20年間で約5件) 大事に至ら

ないことが幸いでした。

⑤ 今後の活動とお願い

今、思うことは、作業後、作業依頼者からのお便りや電話で感謝され、「本当にきれいにしてもらった。」という言葉で、約20年間続けてこられたことです。特に、白木の実家を離れている方からは、新聞に投稿されたりして、感謝されました。ありがたいことです。時には、料金が高いと言われることもありませんが、丁寧に、草刈り作業の状況を説明し、マル愛が特定非営利活動法人であることで理解いただいております。

皆様には、お願いがございます。マル愛は約20年間行動してきて、高齢化しております。特に作業者は、夏の暑さと草刈りは、身にこたえます。これからの活動を維持していくためには、皆様の協力はどうしても必要不可欠です。

趣旨に賛同してくださり、作業をしてくださる方は是非、ご連絡ください。

連絡先 沼崎 洋三

(電話828・1486)

(自走式草刈り機2台・

刈払機もあり)



「事務所移転に際して」

広島市白木地域包括支援センター

センター長 真多 えり

地域包括支援センターが、「高齢者の相談窓口」として平成十八年に開設後、白木町では井原にある三篠園の中に事務所を構えて運営してまいりました。この度、令和四年七月より、移転することとなりました。

これは、母体である社会福祉法人三篠会の運営する井原の三篠園の建物を、老朽化により一部取り壊す必要があるためです。私個人は、平成二十四年に当センターへ配属となりました。当時を思い出すと、介護予防教室や消費者被害教室で集会所等に赴く際には、「人生の先輩方を前に、何を話すのか」と、大変恐縮しながら担当していました。現在も、その思いは変わることがありませんが、地域の皆様が、まず受け止めてくださり、暖かく見守ってくださっているお陰で、精進することができたと思っております。この構図は、「支えになっているつもりが、実は支えられていた」ということです。我々相談援助職は、支援者として地域の方々に携わらせていただきますが、それは見方を変えれば、人生の先輩方から人生のお話を聞かせていただき、様々な価値観に触れる機会を与えて頂いているのです。言葉かけ一つで相手の反応が変わります。常に、「これで良かったのか」と自身の対応をふりかえっております。



ます。「百点満点」と感じた対応をできたことはありません。このように、生涯学習できることを感謝しながら、今後も勤めていければと思っております。

令和二年から、新型コロナウイルス感染症による影響を受けて、ソーシャルダンスが生む社会的孤立に直面しました。地域の方々の見守りも含めて、職員による受け身の相談体制により、事態が悪化した時点で支援を開始する事例が散見しました。裏を返せば、日頃いかに地域の方々の見守りが行き届いているかと言うことができます。改めて感謝申しあげます。今年度からは、感染者数が高止まりでも、平常時の活動を推進することをしております。基本的な感染対策を継続しながら、新型コロナウイルス

ルスと共存する時世を迎えたようです。当センターは、「高齢者の相談窓口」として、広島市から業務を受諾しております。そのためには、皆様方からお住まいの地域について、多くのことを教わる必要があります。今後とも、より良いご支援をする為に、地域の催し事・世代間交流等についても関心高く活動したい所存ですので、お声がけいただきますと幸いです。

さて、移転先は、小越交差点近くに建設した「白木ツジマチ」という三篠会の総合的施設です。ツジマチは漢字で「辻町」と表記しますが、辻は「十字路」「交差点」を意味する大和言葉です。立地の特性と、子供から高齢者までいろいろな人と人生が交わり、集う場所をコンセプトに、白木町の地域福祉の拠点として、また、地域の活性化のために賑わいを創出したいと考えています。白木町の中心に位置する高南地区へ移転することで、人の行き交う割合は高まるものと想定します。引き続き、環境が変わっても、その場所で従事する「ひと」の大切さを忘れないようにしていきます。



「お気軽にご相談ください」は、よく見聞きする台詞ですが、誰もが相談できる状態にあるとは限りません。大変な状況下にあるかたは、周囲の助言を受け容れることが難しい場合もあります。また、相談先が分からないとか、何を相談できるのかが分からないといった不明瞭さも二の足を踏む要因となります。この解決策として、平素より顔の見える関係づくり（顔が分かるが故に相談しにくいこともあり）を、心掛けて、今後も様々な機会を利用して、事務所から出向くように努めていきます。困りごとが即時解決することは少ないですが、まずは不安なお気持ちを受け止める事が出来るよう、そして一緒に考える伴走者として寄り添う事が出来る相談窓口でありたいという気持ちは、井原にいたときと変わりません。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

（7月1日より、井原の三篠園から地域包括支援センター・特別養護老人ホーム・デイサービス等が、「白木ツジマチ」に移転しました。）



社協事務局たより

令和4年度 役員紹介

会長 末田 良陽

副会長 酒井 覚（自治連代表）

副会長 堀元 大三郎（民生委員代表）

副会長 中川 進（福祉委員代表）

副会長 政田 良子（女性会代表）

事務局長 飯田 実（民生委員）

会計 金羽木 千春（一般会計担当）

会計 鳴谷 婦美子（特別会計担当）

監事 奥 秀信

監事 佐久間 和枝（福祉委員）

地域福祉推進委員 飯田 実（民生委員）

顧問（学識経験者） 沼崎 洋三（元会長）

*新しく、政田副会長を選任しております。今期もよろしく願います。

敬老祝賀会中止のお知らせ

見出しの件について、先般の評議員総会において、皆様方のご意見を聞かせていただいたところ、中止の決定となりました。ご了解いただきようお願いいたします。

母子会解散のお知らせ

長年にわたり、活動されてきました井原地区の母子会（母子寡婦福祉連合会）は、高齢化の為、令和4年3月31日をもって、解散されました。

福祉の灯

井原地区社会福祉協議会に対し、左記の方より多額のご寄付をいただきました。地域福祉に対するご理解と御協力に厚くお礼を申し上げ、ご報告いたします。（令和4年1月～6月）

1月 平元 恵美子様（故平元 勝己様）

【編集後記】

我が井原は、山も田畑も濃い緑が映える暑い時期になりました。コロナ禍が、発生して2年余、感染者の方はまだまだ多いですが、制限が緩和されて何となく明るく、前向きに行こうという気持ちになる今日この頃です。

広報を読んでいただいて、色々なご意見・ご要望を、お気軽にお寄せいただければとおもいます。よろしく願います。